

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分でできる
なにかをしてゆくのだ

U-net通信

2017年7月
Vol.95

発行:認定NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫

EMで生物の多様性を図る壮大な取組 ～「桜守」長谷川芳男さんの知恵に学ぶ横浜市～

取材/杉山

「第33回全国都市緑化よこはまフェア」のメイン会場の一つ「里山ガーデン」(横浜市旭区上白根町)で活動する、樹木医であり当会の会員でもある長谷川芳男さん(U-ネット理事・樹木医担当)に開園までの取組みを取材した。



▲自然を生かした大花壇



▲生物多様性が進むカキツバタ園



▲長谷川芳男さんとカキツバタ園

全国都市緑化フェアは、緑の大切さを認識し、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として、昭和58年(1983年)から毎年、全国各地で開催されている花と緑の祭典。

この里山ガーデンはよこはま動物園「ズーラシア」に隣接した、なだらかな丘陵地帯にある。自然を活かした約1ヘクタールの大花壇や、谷戸(やと)の地形をそのままに、広大な菜の花畑やカキツバタ園は、都会の喧騒を忘れさせてくれる。

そんな里山ガーデン造成では、自然と人の調和を生かしつつ、桜等の高木を移植するなど、根の活着を心配する向きもあったと聞く。樹木に優しい事は、自然に取っても良い事。更には生物多様性にも好都合との考え方から、長谷川さんは当初から積極的にEM(有用微生物群)を使いこなした。EM活性液、EM燻炭団子、EM土ボカシ、EMペレット等を駆使した結果は、満足の行くものだったと言う。

また、指示通りに仕事をしてくれた多くの植木職人や、期待通りのEM効果に支えられた活動であったと、しみじみと語るが、長年、神奈川県二宮町で培った「桜守」としての経験が、遺憾なく発揮された

事なのだろう。この谷戸の生物多様性の先に、ホテルの自然発生が待たれる。

EMは効くまで使うのは本筋ながら、使用中の記録を全て残す事が今後の結果に繋がると、長谷川さんは語る。今回の谷戸の菜の花畑や菖蒲畑に、10アール当たり1000L、2000LのEM活性液を投下したのも、これまでの記録と経験に因る綿密な計算が働いたのは間違いない。

EMを使う人の裾野は広がっている。だが、顕著な効果が認められないと言って、直ぐに諦めてしまう人もいる。EMを活性化する際の容器や環境に加え、出来上がったEMの使い方についても常に工夫が不可欠との指摘である。中途半端な取組では何も生まれない。とことん取組こそ全てであるし、とことん取組が出来ないのであれば初めから引受けるべきではないと、長谷川さんは言う。

この里山ガーデンの跡地はフェアが終わった後、約50ヘクタールの植物園として整備され、お隣の「ズーラシア」と合わせて約100ヘクタールに及ぶ「横浜動物の森公園」ができあがる計画だ。

長谷川さんの奮闘記はまだまだ続く。

皇太子同妃両殿下が記念植樹されたシダレザクラの樹勢回復

神奈川県／横浜市

樹木医であり当会の会員でもある長谷川芳男さんは、里山ガーデンに隣接するズーラシアでもEMを使った樹木再生や樹勢回復に当たっている。特に、平成21年4月に横浜開港150周年を記念して、皇太子同妃両殿下が植樹されたシダレザクラ及びベニシダレザクラには、地中にEM燻炭団子やEMペレットを敷設して根の活性向上、地上部では樹形矯正を行ってきた。作業は道半ばとは言え、多くの来園者の目に留まる記念樹木でもあり、一日も早く健康体を取り戻せるよう気配りしている。

計画策定(Plan)、活動(Do & Record)、評価(Check)、改善(Act)は、物事に取組む長谷川さんの基本姿勢であり、特に「記録(Record)」は次に繋げる事ができる「宝」と言う。

EMは常に定性的に取扱われるが、記録の中から定量的な側面も見えて来る。植物は「動けない」、「口に出せない」生き物だが、何気ない植物の佇まいから敏感に感じ取る事が樹木医の仕事でもあるし、今後も対処方法にEMを取入れて行くという。



▲EMによる樹勢回復中の記念樹

善循環の輪 神奈川の集い in 川崎

記録によれば川崎市での開催は、実に22年ぶりとなる。川崎市は横浜市に次ぐ人口を有し、平成29年4月には150万人を超える程の人気の都市。人口減で悩む市町村が多い中、ここ川崎市は神奈川県の中でも年間人口増加数は群を抜いて多いのが特徴です。

このような環境下で、地道にEM活動をする吉田賢治氏(U-ネット神奈川県世話人)に、川崎市での取組を取材した。

家庭菜園を楽しむ柴原夫妻

神奈川県／川崎市

柴原夫妻は川崎市の自宅の庭(約20坪)を使って、ソラマメ、ナス、キュウリ、トマト、インゲン、等を栽培している。柴原夫妻がEMに興味を持ったのは、他ならぬ吉田賢治氏に紹介されてからと言う。健康的な作物を作るのは、植物の生育環境の改善であり、中でも土壌を最良にする事と教えられた。その

第一歩がEMバケツによるEM生ごみ堆肥を作る事でもあった。

約1か月でEMバケツは生ごみでいっぱいになり、それを更に1か月寝かした後に土壌に混ぜる。お陰で野菜の成長は促進され、何よりも美味しいと家族に喜ばれていると語る。大人の背丈ほどに伸びたソラマメの成長にびっくりさせられる。収穫はほぼ毎日。酒が美味しいと口元が緩む柴原茂男さん。



▲自慢のEM家庭菜園で寛ぐ柴原茂男さん



▲庭先にある3台のEMバケツ

日課の食物残渣をEMバケツに入れるのも楽しいし、「理は元にある」とばかり、3個のEMバケツを駆使したEMによる柴原家の家庭菜園は続く。

あれから5年、EMによる除染に取組む金子のぶみち氏。

神奈川県／川崎市

3.11後、家族を被爆から守りたい一心で放射能への対策を模索する中、EMに出会い、独自のEMによる放射線量低減実験を続け、そこから得られた結果を広く伝える活動をするEM浄化研究会の金子のぶみち氏を取材した。

市民活動家であった金子のぶみち氏のEMとの出会いは、2011年の5月。福島第一原発から遠く離れた川崎の地であっても、歯茎からの出血、歯舌痕など、自分や家族の体調の変化となって現れて来た事が、EMを深く研究しEMの効果的な使い方確立する原動力になった。

実験は試行錯誤を繰り返し、たどり着いた結論は、「EMは豊富に撒く事、定期的に使う事と共に、EMが発酵現象を連続的に行える環境(温度を上げる事)を作る事」が除染に効果的と言う事だった。

EMによる放射能低減効果は、これまでも多くの事例が示すように、被害の大きかった福島県中心に確認され、5年経った今でもEMによる除染を試みる人々が後を絶たない。

金子のぶみち氏の実験は密閉された状態で行ったが、これらから得られる結果も他の実験者の結果と同じくするものである。しかし、発酵現象を最大化する事及び光合成細菌を多用する事で、更なる除染効果アップが期待できるとあって日々工夫を凝らしている。



▲EM浄化研究会で発表する金子のぶみち氏(右端)

着実に広がる京都市・滋賀県安土町のEM活動

取材/大山

京都市は観光地として世界的に名を馳せているが、京セラに代表されるように世界に冠たる企業もある伝統と最先端が程よく調和された都市である。

こうした地域性の中から、京都府と滋賀県のEM活動は20年以上の歴史があり、EM農業から河川湖沼の浄化等環境改善と幅広くしかも着実に実績を上げている。

今号は、近畿東部地区(京都府と滋賀県)を管轄するU-ネット理事の吉彌信子さんの案内で河川浄化と河津桜等樹木の管理で奮闘されている方々、無農薬無化学肥料で美味しい農産物を大学食堂等に提供しているEM農家、琵琶湖の湖東地域で河川湖沼の浄化で成果を上げつつあるグループをご紹介します。

人工水路の浄化と河津桜の保護育成

京都市伏見区淀水路

京都市の南西、京阪鉄道本線の淀駅近くに京都競馬場がある。これの中にある池を水源にした人工水路「淀水路」の水は大半が2キロ先の桂川に流れる。この水路の水とその沿路の河津桜など樹木をEMダング、落ち葉堆肥、活性液で3年余り世話をし続けて、成果を上げている方々がいる。京都市が管理する淀緑地東部公園水路の管理協力するボランティア団体の一つ「緑水の径」だ。この代表である石黒佐久良雄氏は、淀水路途中に湧水が流れ落ちる小さな池があり、そこに月2回の割合でEMダングと活性液を投入している。水は投入前には臭っていたが、今は全く臭わないし透明を保っている。ここには水草コウホネが見事な大きさに成長していて、水を浄化すると言われるアサザも思いがけずに増えている。また、この水路沿いに植栽された河津桜は



▲淀水路沿いの小池をバックに石黒佐久良雄氏(左)と吉彌信子さん

277本もあるそうだが、ここ数年、「隠れた京の桜の名所」になりつつある。2月下旬から3月中旬に咲くので、一足早い花見ができる。これらにもEMが貢献している。

都市近郊農業理想の一形態 京都市伏見区中嶋農園

都市近郊農業のメリットは大消費地に近いので、輸送費が少なく済み新鮮なまま消費者に渡すことができる。京都市伏見区向島地区は昔から京野菜の一大産地で農業地域であるが、近年、周辺に大団地ができ人口も増え、かつ大消費地である京都市中心部にも30分以内と交通の利便性が優れ、やり方によっては都市近郊農業の最適地とも言える。このような環境の中、EMでの安心安全で美味しい農産物を生産し、飲食店・大学食堂・企業等との直接取引で成功しているのが(株)中嶋農園である。代表取締役の



▲中嶋直己氏

中嶋直己氏は周辺の考えを同じくする先進的な農家と連携してこの事業を推進している。この一例が、同じ伏見区向島にある仏教系の種智院大学食堂との連携だ。この大学は弘法大師空海が創設し一般の方々も対象にした日本最古の大学とされる。この大学食堂を経営する関佳彦氏は吉彌信子さんと20年来のEM仲間で、お二人で中嶋氏に無農薬無化学肥料での栽培・EM農法を勧めた。こうした農法で栽培された安心安全で美味しく栄養価が高い食材を安く提供して、学生のみならず一般の方々にも供され喜ばれている。



▲種智院大学食堂の内部

周辺河川湖沼へのEM投入で琵琶湖が徐々に浄化へ 滋賀県近江八幡市安土町

JR東海道線を利用して京都駅から東へ40分で滋賀県近江八幡市安土町の安土駅に到着する。織田信長が築いた安土城があった所としても有名で、金の瓦や西洋式を一部取り入れた豪華な城だった。安土町は琵琶湖の干拓でできた田畑が多いので平地が琵琶湖に向けて広がっている。城跡がある台地と平地の間に安土川があり琵琶湖に流れている。この安土川の畔にオーガニックステーションEM安土がある。この代表の中川次代さんと仲間の方々には安土川、近くの「よしきりの池」、八幡堀など数カ所にEMダングや活性液の投入を継続している。また、生ゴミ堆肥化用のボカシを仲間と共に作って生ごみ減量化を実現し、熟成させた生ゴミ堆肥で安心安全で美味しいEM野菜の普及も図り、河川湖沼の浄化と共に地域の環境改善を推し進めている。また、数年前まではきれいな蓮が咲きほころび現在は汚れて一輪も咲かない福島弁財天のお堀をEMで復活させたいとステーション仲間を募って企画しているようだ。



▲EMの二次培養用1トンタンクと安土川を背にオーガニックステーションEM安土のメンバー(右端が中川次代さん)

花が紡ぐ長井市の EM ガーデン

～ガーデニングを通しての EM 普及活動の広がり～

取材/大島

山形県長井市は、アイヌ語の「モガミ」(静かなる神)を由来とする最上川の発祥の地。飯豊連峰や月山など自然豊かな地域である。冬には多い時で 2m ほどの雪に閉ざされる地域でもある。長井市の隣町の白鷹町はペニバナの産地としても有名で、紬の里として茨城県結城市と姉妹都市を結んでいる。そんな地域でガーデニングをとおして地域の方と EM の普及に尽力している遠藤かつゑさん(U-ネット山形県世話人)を訪ねた。

現在に至るまで

長井市のキャッチフレーズは「水と緑と花の町長井市」。遠藤かつゑさんは、このキャッチフレーズにひかれ長井市の「花いっぱいコンクール」に参加。最優秀賞を受賞したのがガーデニングの始まりである。その後、自宅の庭をオープンガーデンとし、日本園芸協会全国ガーデニングコンテストに入賞するなど数々の受賞歴をもつ。



▲EM生活を楽しむ会のみなさん(前列右から3人目が遠藤かつゑさん)

EM との出会いは 2006 年、ガーデニングで知り合った方から EM を勧められたのがきっかけだった。

EM を使い始めて、その効果に驚き様々な所で使いその効果を改めて感じた。自宅の庭の呼び名を「EM ガーデン」として、EM の普及に努め「最上川河川敷緑化公園ボランティアガーデン」をはじめ、長井市のいたる所に 2007 年に設立した「花と緑・環境の会」を中心に EM を使ったガーデン作りに尽力し、第 18 回全国花のまちづくりコンクールにおいては、個人の部において、花のまちづくり大賞国土交通大臣賞を受賞。

また、毎年 EM インストラクター養成講座を行い EM の普及に尽力し今日に至っている。

これからの活動

今後の活動は、会の名称を「EM生活を楽しむ会」とし、活動を二

つに分け一つは「花と緑環境の会」として主に EM を使ったガーデニングと市内の小中学校のプール清掃に EM 活性液を提供(現在小学校 5 校、中学校 1 校)する活動を行う。

もう一つは「健康の会」として年に数回、田中佳先生や杉本一朗先生の健康についての講演会を企画・運営していくとの事である。現在、会員数 132 名。

この会のモットーは「やれる時にやれる人が」を合言葉とし誰もが無理なく楽しく活動できること。最近では個人的にガーデニングを依頼される方もおり、快く引き受け、皆で楽しく活動している。

まさに、花が取り持つ人の縁がここ長井市には見られる。

今回集まってくれた方それぞれが「ここで活動することが心や体の癒しになる」と言っていたのが印象深い。



▲四季の花に彩られる遠藤かつゑさんのお庭



▲依頼された荒澤さんのお庭

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■これからの主要行事のご案内■

■善循環の輪 神奈川の集い in 川崎

日時 日時: 8 月 26 日(土) 開場 12:00 開演 12:30

会場 川崎市国際交流センター

川崎市中原区木月祇園町 2-2 044-435-7000